

1. Quark License Administratorのライセンスのタイプとは？

Quark License Administrator ServerはQuarkXPressからネットワーク上にアクセスする為に常時起動している必要のあるアプリケーションですが、Quark License Administrator Clientはライセンスの管理、設定、変更などQuarkXPressの使用を制御する為のアプリケーションになります。その為、必要な時に起動してご利用いただくようになり、常時起動しておく必要はありません。

Quark License Administratorのライセンスには、ライセンスタイプを割り当てることができます。**ランカウントグループ、ノードロックリスト、ノードロックグループ**の三種類です。これらを設定することにより、ライセンスの使用優先権を指定することができます、また必要に応じて予備ライセンスを要求したりすることができます。

お客様のそれぞれの環境に合わせて、設定を行うことにより大変便利で快適なライセンス管理を行うことができます。

下記に3種類のライセンスタイプの内容をご説明します。

●ランカウントグループとは

QuarkXPressを起動した**先着順**に最大ライセンス数までQuarkXPressの起動が許可されます。Quark License Administrator Clientのデフォルトはこの設定になりますので、特に設定を行わなければ、購入したライセンスの合計数はすべてランカウントグループに割り当てられています。

●ノードロックリストとは

指定された特定のユーザーあるいは特定のマシンだけに許可されるライセンスになります。指定する分のライセンス数が必要です。例えばユーザーに「ノードロックリスト」を指定した場合「ランカウントグループ」のライセンスを使用することもできますので、使用頻度が高いユーザ（マシン）にこの設定が有効です。

●ノードロックグループとは

一定数のライセンスを共有するユーザー（マシン）のグループを設定することができます。通常グループに指定されているユーザー（マシン）は、割り当てるライセンス数よりも多くなります。「ノードロックグループ」のユーザー（マシン）は、「ランカウントグループ」のライセンスを使用することもできます。使用頻度が低いユーザ（マシン）が存在する場合にはこの設定が有効です。

「ランカウントグループ」はライセンスの割り当てを起動した順に行います。「ノードロックリスト」「ノードロックグループ」はユーザーやClientマシンに対してライセンスの優先権を与えたい場合に使用します。

2. ライセンスタイプの設定(QLA Control Panel)

◆QLA Control Panel



左図は「QLA Control Panel」ライセンスタイプが未設定の状態です。その場合ウインドウ右下の「ライセンス配布」が空白になっています。

全ライセンスは「ランカウントグループ」として扱われています。

新たにノードロックグループ、ノードロックリストを作成してライセンスを配布したい場合は、「ライセンスファイルアプリケーション情報」内のシリアル製品名を選択して、ウインドウ右下の「追加」ボタンを押下します。

◆「ライセンス配布を追加します」ダイアログ



左図は、例) WX ……を選択した場合です。

ここで「ノードロックリスト」と「ノードロックグループ」の設定を行います。

- 1) 「グループ/リスト名」を入力します
- 2) グループカウント項目で「ランカウントグループ」から割り当てるライセンス数を入力します。
「ノードロックのプールを作りなさい」チェックボックスを**オン**の場合「**ノードロックグループ**」
オフの場合「**ノードロックリスト**」として設定されます。
- 3) 「ノードロックリスト」として設定をする場合はユーザーとホストIDが同じマシン上で使われるとしても、登録した数だけライセンスが割り当てられます。**ホストID=EthernetID**

「オフラインライセンスチェックアウトの許可」のチェックボックスをオンにした場合は、同時にライセンスのチェックアウトの設定も行うことができます。許可する場合は「最大有効期間(日数)」の入力も行います。

3. リモートライセンスファイルの作成

リモートライセンスファイルを使用すると、任意に設定した期間ネットワークに接続していなくても利用可能になります。Ethernetアドレスとユーザー名、ライセンスの使用日数の情報を入力してファイルを作成します。ライセンスチェックアウト機能を利用した場合もネットワークに接続せずに使用することができますが、ユーザーがライセンスチェックインできない状態、なおかつ、ライセンスチェックアウトの予定期日よりご利用の延長が発生した場合などに利用します。

その場合、作成したリモートライセンスファイルをクライアントユーザーにメールで送付して、QuarkXPressのアプリケーションフォルダに配置していただければ、設定した日数分継続してご利用いただくことができます。



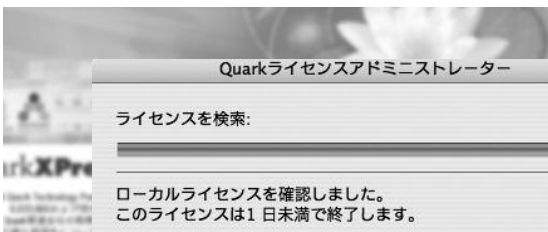
左図はリモートライセンスファイルを作成するためのウインドウです。
(補助メニュー>リモートライセンスファイルの作成)

- 1) 複数ある場合は該当のシリアル番号を選択してください。
- 2) アプリケーション名は「XPress」を選択して下さい。
- 3) 「種類」はご利用のバージョン(6.1 or 6.5)を選択して下さい。
- 4) 「日」の欄には使用する日数を入力して下さい。
- 5) ホストIDにはマシンのEthernetIDを入力して下さい。
- 6) 開始日をカレンダーから選択すると、設定された「日」に合わせて自動的に終了日が設定されます。

必要項目を選択、入力後「作成」を押すと、リモートライセンスファイルの作成先を選択するウインドウが開きます。ここにユーザー名の名前のフォルダが作成され、その中にリモートライセンスファイル、XPress6.5.dat (Quark XPress6.5の場合)が作成されます。



ホストIDと種類が間違っていた場合、正常起動することができません。但し、ユーザー名が異なっていた場合でもホストID(EthernetID)が一致していれば有効です。



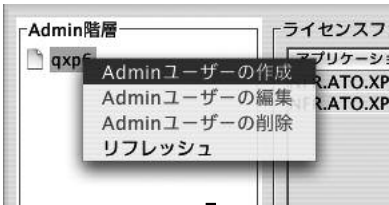
「XPress6.5.dat」ファイルを使用マシンのQuarkXPressアプリケーションフォルダに配置すると、左図のように「ローカルライセンスを確認しました。」と表示され、QuarkXPressはQLA Serverへのアクセスを行うことなく起動することができます

ライセンスの有効期間が過ぎると、QuarkXPressアプリケーションフォルダから「XPress6.5.dat」ファイルは自動的に削除されます。

4. ライセンスの管理とローカルアドミニストレータの作成

組織内で各部署ごとのでライセンスを管理をしたい場合、複数のローカルアドミニストレータの作成をすると便利です。ローカルアドミニストレータに自分の部署のユーザーにライセンスを割り当てる権限を持たせることができます。このようにライセンス管理を行うことで、無駄なライセンスを発生させることがなく、部署ごとにライセンス数の調整を行うことができます。複数のローカルアドミニストレータはスーパーアドミニストレータが管理します。そうすることでシステム全体のライセンス状況を簡潔に把握することができ、スムーズな管理が可能です。

◆QLA Control Panel Admin領域



Admin階層領域のスーパーアドミニストレータ上でCtrlキーを押しながら、マウスでクリックします。

ここで、Adminユーザーの作成や編集を行います。

MEMO

- ◆ローカルアドミニストレータの配下に更にサブアドミニストレータを作成することもできます。
- ◆ローカルアドミニストレータに割り当てられたライセンスもライセンスタイプの設定ができます。(「2.ライセンスタイプの設定」を参照)



- 1) ユーザー名とパスワードを設定します。
- 2) 「ユーザーロック」のチェックマークをオンにすると、スーパーアドミニストレータがローカルアドミニストレータの設定を変更できなくなります。
- 3) 該当シリアル番号の上でダブルクリックすると割当てられたランカウント数の編集が可能です。

- 全ランカウント
スーパーアドミニストレータが使用できる全のライセンス数
- 残りのランカウント
ローカルアドミニストレータに割り当てることのできるライセンス数
- 割当てられたランカウント
ローカルアドミニストレータに割り当てられたライセンス数